

(竜王南小) 学校 学校関係者評価書 (前期・後期)

平成27年7月22日(水)
(竜王南小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成27年7月22日(水) 午後7時30分～

会場：竜王南小学校会議室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議委員 鶴田重雄 梶原照夫 込山伸一 米山壽浩

P T A 役員 会長 志村秀剛

副会長 金子智子 岡田文子

(学校側) 校長 堀内 訓

教頭 大柴剛一

教務主任 内藤 賢

生徒指導主任 二宮直人

I 学校側から提案された内容

- (1) 児童のアンケート結果及び概要, 課題
- (2) 教職員の自己評価結果及び概要, 課題
- (3) 児童アンケートからの気になる部分

II 協議された主な内容

- (1) Q-U調査の内容と効果について
- (2) 当たり前10箇条等, 生徒指導について
- (3) 地域との連携について
- (4) 家庭生活・学習について

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

学校評議委員から、学校開放日に子どもたちが行っていた清掃活動で、一生懸命に清掃する姿に感動したという意見が出された。学校からは、「当たり前10箇条」を子どもたちに具体的な場面で意識させるために、今年度は4つの具体的行動目標を設定して取り組んでいるという説明があった。清掃については、P T A役員から、家庭での取り組みの様子が話され、家庭と学校の連携で確実に清掃活動が構築されていると感じた。生徒指導は後手に回らず、決まりを指導した上で自治活動をつくりあげていき、そうした一つひとつが「当たり前10箇条」につながるという学校の考え方の説明があった。具体的・積極的取り組みとして、朝は学級で担任が児童を迎えること、毎週月曜日の学校集会、教室間・体育館への整然とした集団移動、あいさつ運動等の取り組みの説明を受けた。あいさつに関して、児童はよくあいさつしているという意識でいるものの、あいさつを受ける側に気持ちはまだまだしっかり伝わっていない場合もある。そのために学校でもあいさつに積極的に取り組んでいるという報告があった。地域での子どもたちのあいさつの様子を学校評議委員に尋ねたところ、子どもたちは、顔を覚えるとあいさつできるようになってくるとの話だった。学校での取り組みを今後もお願いしたい。学校からは、地域の見守り隊の方々の日々の支援に感謝し

ているという意見が出た。

また、今年度は朝の職員打合せをやめ、学級担任は、朝、教室で子どもを迎えるようにしたという報告があった。このことについて、学校評議委員からも、子どもたちのためにととても喜ばしいことで、教職員の雑務を軽減して、教職員が地域にでていける時間や、子どもと接する時間を増やしてほしいという意見が出された。

地域との連携では、地域の青年、壮年層が地域と希薄になっていて、壮年層が地域を守ることができなくなっているという実情が話された。家庭を創ろうといったエネルギーもなくなっていることから、家庭でのあり方もなくなっているのではないかという課題も出された。

いじめ問題について、学校から、一人ひとりの学級での状況把握にQ U調査が有効なこと、全職員で報告、連絡、調整を行い共通理解のもとに対応にあたっていることの説明を受けた。敗戦（戦後）70年ということもあり、いのちを大切にできる子どもを育てたい、思いやる心を育てたいという確認がなされた。

家庭学習については強化週間の取り組みが効果的で、親も頑張ったし、子どもの自主性も高められたことがわかった。取り組み後のアンケートから、学習への取り組みとテレビ・ゲーム時間に個人差が大きいことも分かった。

心の教育に関わって、学校で心の教育を充実させていくことはもちろん大切ではあるが、学校に道徳的なことを求めるばかりでなく、家庭でも見直していく必要もあること、家庭で子どもが話していることに親も一緒に話をすることが必要なことの意見が出された。

Ⅱ 特 徴

○4つの具体目標への具体的な取り組み

- ・ 明るいあいさつができる子ども（あいさつ運動、やはたいぬ来校）
- ・ 一生懸命に掃除ができる子ども（無言清掃、BGMの工夫）
- ・ すすんで学習できる子ども（朝学習・読書、家庭学習強化週間、夏季学習会）
- ・ おちついた生活ができる子ども（朝、担任が教室にいる、廊下は歩くなど）

○地域、家庭との連携

- ・ 胞子の会を中心とした地域人材の活用（地産地消、グリーンカーテン）
- ・ P T Aによる愛校作業（机・椅子へのテニスボール設置、樹木選定など）
- ・ 家庭学習の手引き活用による家庭学習の充実
- ・ 教職員の地域行事への参加

○創立40周年としての取り組み

- ・ 合唱のできる学校（音楽集会の充実）

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・ すべての子どもたちが将来の夢や希望を持つこと。
- ・ 難しい仕事に、どのようにして子どもたちが主体的に取り組めるようにするか。
- ・ 教師が子どもと触れ合える時間の確保。
- ・ 家庭での読書時間、学習時間、テレビ・ゲーム時間、睡眠時間の個人差が大きいこと。
- ・ 地域力、家庭をつくる意識の低下。